

視覚と記憶を結び付けた
“他人に知られず、自分は忘れない”認証方式

マルチセキュリティ システム

株式会社SKRテクノロジー

<http://www.skr-tech.co.jp/>

文：野本幹彦



入退室管理の要となる本人認証に同社のさまざまな工夫と技術が注ぎ込まれている。

多様な方法を組み合わせた 本人認証システム

インターネットデータセンターのセキュリティは、ネットワーク経由からの脅威に備えると同時にセンター内への不審人物の立ち入りを制限することを考えなければならない。現状でも、IDカードやパスワードによる入退室システムを導入したり、指紋や虹彩を利用したバイOMETRICS認証システムの導入などは考えているだろう。

しかし、SKRテクノロジーの「ハイセキュリティドア対応入室管理システム」は、これらの既存の本人認証システムとは異なる考え方で開発された入退室管理システムだ。同システムは、偏光の原理によって可視化フィルムを通さなければ見ることのできないセキュアードディスプレイ、可視化フィルムの付いた非接触ICカード、画像の組み合わせで本人認証を行うニーモニックガード(株式会社ニーモニックセキュリティが開発)で構成されているシステムだ。

まず、入室を行おうとする人間がドアに取り付けられたディスプレイにICカードを近づけると電源が入り、各個人用の認証画面が起動する。ここで可視化フィルム付きのICカードをディスプレイに差し込めば、認証画面が見えるようになる。あとは、入室者があらかじめ決めておいたパターンで画像アイコンを押していけば、本人確認が行われてドアが開くようになっている。

画像アイコンによる パスワードのメリット

認証画面に表示される画像アイコンは、個人別に異なるものを表示できる。ここにあらかじめ自分の記憶や思い出と関連する画像を登録することによって、本人のみが理解できる“忘れないパスワード”を使った認証が可能となるのである。

たとえば、「公園のベンチに座って夕日を眺めていた」という思い出と「地平線に見える一軒家に住みたい」という願望がある場合、下のような認証画面で「ベン

チ(真ん中右端)→「夕焼け(真ん中左端)」→「地平線(下段右端)」→「家(真ん中左から2番目)」の順に押すように登録しておけばよい。これらの記憶に基づいた画像での認証では、本人が押すべき画像を探し出せないということは考えにくく、たとえ長く使っていない物でもおぼろげな記憶の断片でも残っていれば、認証画面を見ただけで記憶を呼び戻すことが可能だ。英数字によるパスワードや暗証番号のように忘れてしまったり、紙などにメモしてパスワードが漏れてしまうという心配もない。

また、英数字によるパスワードや暗証番号では、どのような組み合わせで入力ミスをしたとしても、一定回数で不正使用と判断するしかなかったが、ニーモニックガードでは正しい画像アイコンを押したかどうかで「判定回数」と「総判定回数」を使い分けることができる。

これは例えば、12個のアイコンから5個のアイコンを選択するような場合、正しいアイコンが1個以上含まれていたり、間違いが3個以下なら10回まで間違いを許可し、正解を1個も含まない場合や間違ったアイコンが4個以上押されたような場合は、本人である可能性は極めて低いと判断して2回までしか入力を許さないように設定できるということだ。もちろん、不正使用と判定された場合には、管理部門などへ通報するための信号が送出される。本人を排除してしまう可能性は限りなくゼロに近いのだから、自動的に退路を断ったり、視界を遮断させるといった対応も考えられる。



本人認証画面。記憶に基づいた画像アイコンを選ぶことによって、忘れにくい認証システムを実現している。



